

事務事業 No./名称	■サービス部門 生涯-02 □支援部門		吉屋信子記念館管理運営事業				
主管課	生涯学習課(鎌倉生涯学習センター) 関連課						
分野名	生涯学習						
目標 (目標値)	記念館の部屋の利用率及び一般公開観覧者数の増加を図る。 利用率30% 一般公開観覧者数 65,000人						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	事業の対象者数	5,636人	6,014人	6,082人			
事業の対数	2,693	3,803	3,737				
運営資源状況	決算値(千円)	2,693	3,803	3,737			
	(国・県)						
	(負担金等)	195	185	210			
	(一般財源)	2,498	3,618	3,527			
	人員配置数	0.2	0.4	0.4			
	人件費(千円)	1,750	3,562	3,592			
	協働のパートナー	鎌倉市生涯学習推進委員会	鎌倉市生涯学習推進委員会	鎌倉市生涯学習推進委員会			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	4,443	7,365	7,329			
	市民1人当りの経費(円)	25	42	42			
	対象者1人当りの経費(円)	788	1,224	1,205			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
利用者人数	△	目標値	6,800人	6,850人	6,850人	6,850人	6,900人
		実績値	6,014人	5,636人			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
吉屋信子記念館管理運営事業 (164)	2,693千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒	□A ■B □C □D □E
	事業の概要	吉屋信子記念館の維持管理を行うとともに、一般公開業務や施設利用業務などを実施する。		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	旧居をそのまま生涯学習施設や一般公開施設として活用しているため使い勝手が悪い。また、施設の老朽化に伴い、修繕箇所が毎年増加している。			
課題解決のための取組	記念館のパンフレットを増刷し、PRに努めている。庭園や建物の整備を行い、繰り返し利用したいと思えるような環境づくりに配慮した。新聞社、雑誌社等の取材に積極的に応じている。			
未解決の課題	指定管理者制度への移行については、現段階では施設の性格からしてなじまないと考えているが、将来的には近くに鎌倉文学館があることから、費用対効果などの面から施設の連携を図っていくことは検討課題であると考えている。			
今後の方針	当記念館の設置目的を踏まえながら、収入の確保や経費の節減等、効率的で有効な活用を図るために、今後もPR等に努めていく。施設の維持管理については、現状の美観を維持しつつ、必要な修繕等を行っていく。また、今後は一般公開の拡充に向けて検討していく。			
今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止 ⇒	B	※ □事業完了	課長名 鈴木 郁雄

